エンジニアパーク　Engineer Ring Park

柳　　浩徳　農業部門（農業土木）

勤務先：NTC コンサルタンツ株式会社

今から５年くらい前ですが、私は「気づく力～何故人は『大切なこと』を見過ごすのか」という記事が掲載された雑誌を読む機会がありました。各界の著名人が体験をもとにいろいろな視点から「気づく力」について述べており、どれも私にとっては「目から鱗が落ちる」ものでした。仕事で失敗したときに「あー、何故そこに気づかなかったんだろう」と後悔しながら、また、失敗を繰り返してしまう。本当の意味で気づいていないのではないか？「気づく力」は私たちが日常業務を展開する上で非常に重要な資質となるのではないか？

心理学で「気づく」とは、ある問題に直面したときに、それを感じ取り、解決していこうとする心の動きだそうです。私は、この仕事は何をする仕事なのか、課題は何か、顧客が要求していることは何なのか、ということを常に考え、行動することが必要と考えています。また、失敗した場合は、結果を分析することと併せてそこに至った背景（人、時間、作業環境等）にも着目して、それを解決していこうとすることが必要と思っています。これらの行動により、「気づく力」が培われるのではないかと考えています。

これからも失敗はするかも知れませんが、この「気づく力」がついていけばその回数を減らし、程度を小さくできる、そしてその先に「失敗を恐れない大胆な発想」ができる、と思っています。

次号は、利根川陽一さん（農業部門）

倉内　　寛　農業部門（農業土木）

勤務先：株式会社ルーラルエンジニア　札幌支店

私は、大学卒業と同時に財団法人農業近代化コンサルタント（現在は名称変更されていますが）に勤務し、平成 11 年株式会社ルーラルエンジニアに転籍して、主に道営事業の調査設計や計画業務に携わっております。

近年は、国営農地再編整備の事業計画を担当する機会が増え、私が中富良野町出身ということで縁があったのか「富良野盆地地区」の計画も３年間にわたって担当しました。

「富良野盆地地区」は、中富良野町の水田地帯のほぼ全域が受益区域となっていて、受益者の中に親戚や知人の名前があったせいか、今まで担当した地区とは違う感覚があり、ヒアリング直前など年齢的・体力的にきつい時期も、地元のためにという思いで頑張れたような気がします。

これまで設計したものはパイプラインが多く、工事後に目に見えるのは空気弁や給水栓など点的な構造物で実感がなかったのですが、「富良野盆地地区」については面的な整備が主体であることから、工事後の変貌が目に見えてわかるので非常に楽しみです。さらには、事業実施後の中富良野町の農業がどのように変わるのかという点でも、出身者としてまた計画に携わった者の一人として大いに期待しているところです。

今後とも、（このように特定の地域に思い入れすることなく）微力ではありますが、北海道の農業･農村の発展のために貢献していきたいと考えています。

次号は、平岡俊造さん（農業部門）